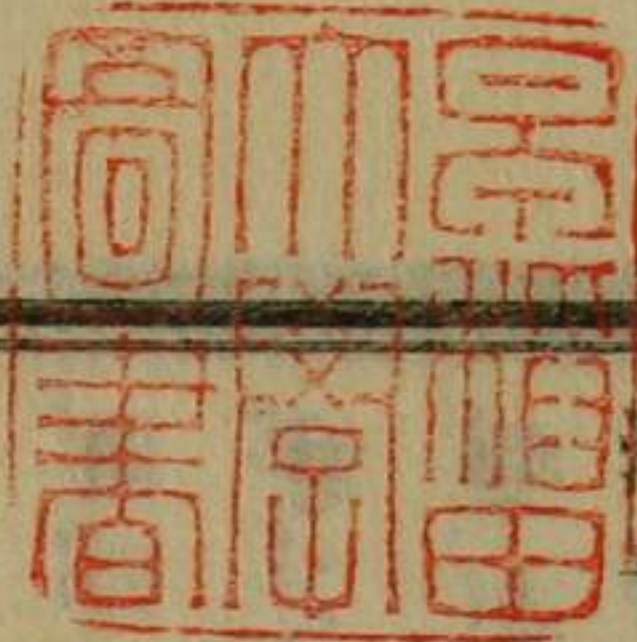


法普戰爭誌畧卷之六



西曆一千八百七十一年一月十五日即ち

我明治三庚午年十一月二十五日也

勝保民回教書

一月十五日〔巴里府籠城今日既より一百二十日也〕昨十
四日夜軍中報告敵軍巴里府市街中より砲撃はる處昨
夜以來其方向益々増加し大に諸方より廣まれりモン
ギサンジュルピスワラン又等の諸街は昨夜半以來
夥しく彈丸飛來し甚を劇烈也郭外の城寨は昨夜
攻撃大に緩み彈丸の飛來甚を減少せり云々○一

月十三日巴里府在留歐羅巴各國の外務全權職中よ
り普國の宰相ビスマルク氏に送る一書あり其文よ
曰過日以來日夜數多の爆丸巴里府内可雨降散亂し
く婦女兒童及病者の輩之を爲す死傷はる者尠ら
し且就中右死傷中府内在留外國の人民最も衆し而
して此砲撃をなはしふ其以前公聞の報告なく又府内在
留の各國外務全權等とも通報はることもなく突然不
意に其砲撃始まれは局外中立の外國諸民等俄に此
變ふ當はる道避は路なきは此地を避る其害を免
るはなき各國外務全權等今此府内に在はる全く

此府内に在留すは本國の人民を保護するは外他事
なき故に相議して其人民の危害を避る其身を保護
せしめむ事を計は爰に於て今閣下を問ふ其處置
を乞ふ曾て歐羅巴諸國盟約し相誓ひ所は軍律公
法を國に都城を爆彈攻撃せよと欲せは先は之を前
知報告せし後砲撃を以て其城を包む事は其規律
中の一なり然るに今府内在留の各國全權職等一は
も閣下の前報あることを知らはしは一統會合して
連名の書翰を呈し今其軍律公法に從ひ處置あらむ
ことを乞ふ願はくは閣下其意を軍律公法に注きて

之と能くせよ云々恐惶頓首

一千八百七十一年一月十三日於巴里府

巴里府在留各國全權公使及領事官

歐羅巴各國及花旗之諸全權公使

使 拾貳名

全權公使代領事官 七名

北獨逸同盟國乃全權

普國宰相 コントビスマ几少閣下

○昨日政府普く府内に公聞は依一書と曰去月二十

七日ウエルサイル縣普國本陣宰相ビスマ几少氏よ
巴里府在留乃花旗全權公使ワスポルン氏乃元
一翰を送り其披見後これ法國外務宰相中へ通報
以へし旨を以て政府之を受取り其文と曰當月二
十三日我軍乃一使官書翰を以て法軍中へ傳達せむ
らちめ軍例乃如く相圖乃鉦鼓を鳴りして白旗を建
てポンドセーブルみ出づ法軍乃前營へ到り然る
み此時法軍其軍律を犯し其公法を顧み此使官み
向はて發砲せり猶又曩み戰鬪は始は屢く法軍我軍
使に對して恣り砲發せし事數回今其蹤迹顯然たり

是實に軍律を踏まはら粗暴に舉動をせし以來雙方
傳達にへき事件あつて軍使が馳使をせし時ハ彼が使
官よに相圖に鉦鼓を應じて雙方均しく士官出會し
て授受をなすに余今謹むる之を閣下を乞ふ願ハ
くを閣下此事件を法國外務全權職ハーパール氏を告
ぐ詳らる其穿鑿をなすし若し法國政府向後
猶書翰贈答に便宜を計らむこと欲せし宜しく其
軍律に背たる兵卒を速に咎罰し我軍使を謝すに
き也我今我軍中使官に向はて此軍律破戒を所爲に
説得次第と能はば是固よに軍令の一重件則ち

ハ也云々下畧○一月二日巴里府城總裁職ドロシユ
右の書翰に答ふに一書あり曰獨逸宰相ビスマルク氏
の書翰に曰去る十二月二十三日ポントセルブルの
地に於て普の一軍使我前營に其書翰を送達せむら
ため軍使の相圖及白旗を建て來るに我軍之に對し
發砲せりと云々實是笑止の至也然しとも余今之に
答ふへき數件あり我軍將既り屢々其事件を我に告
知せり今般籠城以來普國の兵士我軍使に向はて暴
動砲發せしこと數度也近日猶其蹤迹數回ありゼネ
ラルニラン氏をサンデニール城に於るカビテ

ンエリソンらポアンドジウール乃地を於て暴亂又ア
ミラ九ロシエール氏らサンデニーの前營を於て
暴亂皆我使官を對して普軍恣まくに發砲暴動せり今
爰に其罪科を算計決せし渠を爲り其咎責を受く可
き理を渠宜しく其軍中を穿鑿して其暴動斷然禁
示し宜しく雙方軍律に基いて可也と云々○一月五
日獨逸宰相ビスマルク氏米利堅外務全權を倚りて
其答を爲り向後相互に其軍使を送達決は時軍律
を從て戻は可ら決と云々○一月十一日法軍カビ
テーンエリソン氏巴里府總裁職ドロシユ氏に一書

城携へてポイントセーブル地を於て普軍の前營を
送達せり其文を日過日以來巴里府郭外南部に在る
獨軍の砲臺より砲撃を始めし以來府内市街之を
めし衝撃せらる就中サンペートルリエールワルドグ
ラスピチエールピセートルパンハンマラート等諸
病院を其爆丸を爲し死傷夥し其他婦女兒童病者之
を爲し殪はる者又枚擧決に違あらは巴里府總督
今是を普軍總督將軍コントモルク氏閣下を告ぐ巴
里府内の諸病院を皆以前の如く少しも轉館決は
とふし軍律を砲撃に規則公法自ら定まれり宜く其

意を軍律に注ぎ其法令を採り指揮被訂正し可なり
と云々下畧○軍使砲撃暴動を受く事第一と法
軍カビテーンエリヅン氏ポンドセーブルの前營よ
り普軍に前營に使せし一條一月十一日晝十一字法
軍指揮官エリヅン氏總裁職の一書を携へポンドセ
ーブルに普軍前營に向はる彼に軍使相圖を鉦鼓被
鳴らし白旗を建り出て候はる普軍其鉦鼓に應し
て又白旗を建たり然るを絶り士官來會せ候猶此
手に砲臺よ城郭中ポアンドンジウールに向はる砲
發は流とと止ま候軍令に軍使來會候る時其相圖

の鉦鼓に應し其手に砲臺放發を歇止は流禮也爰
よ於る法國使官頻り其鼓手を命して其砲發歇止
の相圖を爲候と雖も獨軍絶て其射發を歇め其後
大略半時を経て獨軍の白旗進むて我軍使に近はる
り然れども此時又獨軍に一分隊中より俄に其軍使
に向ひ發砲を始めたり法國二員は士官進むて其
職任を果候こと能は候空しく飯陣せ候第二とゼネ
ラルペリシエールよ巴里府總裁職に送る一書被
報告に曰一月十一日獨軍ポンドセーブルの我前營
に向はる軍使送達に相圖の鉦鼓を鳴らせり爰に於

て我先鋒砲臺其射る所は砲火被止め軍使は來會候
れを俟候こと一字よる二字半迄也然もを曾て其
軍使來會を以加之此手の獨軍砲臺より射發候こと
と益々熾也是全く敵は偽計より我砲火を止め渠
其砲撃を遅しふむことを欲せしむる也又今度爆
彈攻撃の始まらば以來既ニ斯れ如き偽計詐謀屢々
あれども軍律に定則ありて約束公法ありて我軍其
規律を背らば正しく彼の相圖に應じて法則の如く
ふまじを彼乃所行斯の如くふるも大略數回なれ
ハ其處置之を奈何とむと云々

ゼネラルジビジオン隊都督

ゼネラルペリリエール

巴里府總裁職閣下

○同十六日昨十五日軍中報告今朝以來敵軍の砲撃
實に苛酷にして今次籠城中未だ見ゆ所也我郭外
に諸城寨よりも烈しく砲撃し以て之み酬へて昨夜
前營に先鋒將ゼネラルジユクロー其兵を繰出し一
小戦候ふし而して敵兵若干を生捕ふと云々

一月十五日 巴里府城總裁職

此他今日總裁職及先營の先鋒將軍より報知ありと

雖も只一小戦ふして別々大なる異聞なるといふ爰に
略次○巴里府街中人民乃死傷昨十五日夜敵軍の砲
撃劇しく殊更夜半十一字頃最も苛酷を極め而して
其爆丸の城寨を墮ち高く飛むる府内の市街に雨
降散亂次々その無數みしとセーン河左側の諸街皆
其害を蒙り又其最遠く飛來らせしものハプーシ
ワールサンミツセ九街の泉水近方二十メートルの
地に來り殆むと巴里府の中央に達せり故に此北部
の街中より住居老若男女兒童號叫の聲街々響き皆
其遁路を求めて此害を避むと云今日午後此邊街中

奔遁次はもの右往左往ありしと最も混雑せり又昨夜
以來此市街中に死傷次々その一百八拾人みして死
者三拾餘人傷者一百五拾人ありと云就中兒童の害
に逢ふ最も多しと聞く是眞に可憐也彼の爆丸三萬
尺を飛むて一發數十人を殪次と云宜され哉○巴里
府内市街中人民の死傷録巴里府内一月五日より十
三日迄日夜砲撃を受く是か爲に死傷次々者其數
左の如し自五日至六月一月五日夜より六日朝迄獨
軍彼の長大迦農クリュツプ砲を以て市街を劇射次
はもの方數十丁其街名を略次とす其爆丸乃雨降

殊可苛酷なれば市街中家屋の破壊毀焼次第その甚
ち多し死傷の者十人ありて五人を即死し五人は傷
く○自六日至七日今夜市街の砲撃六字より始まると其
方向甚ち擴まると大に家屋を破碎焼失せし傷者十
人ありて内五人を重傷也○自七日至八日今夜七字
よる砲撃始まり其方向前日と均し而して兵學校の
近傍に墮はる所の彈丸一百餘丸也今夜七字よる九
字半迄二字半の間に槩に二百二十拾の爆丸を市中に
放てり死傷の者拾五人ありて内貳人ハ死し拾三人
ハ傷く○自八日至九日今夜敵軍の砲撃最も劇烈と

しる宵七字よる朝五字迄の間市街中ハ雨降せし爆
丸其數九百丸にして最も苛酷の砲撃を受るとは市
街數多あり〔街名を略し〕死傷の者五十九人内二十二
人を死し三十七人を傷く○自九日至十日今夜砲撃
其方向前宵と均し夜九字より十字の間と雨降の彈
丸三百而して夜半後二字又五十の彈丸飛來せり又
處々の家屋放火焼損せり死傷の者五十一人内十二
人死し三十九人傷く○自十日至十一日今夜砲撃の
苛酷及其方向總て前宵と同し夜九字より朝三字に
至迄而して其街路に墮落所の彈丸都て二百三十七内

八十九彈をオヂラー九街に墮ち又三十八丸をグシ
ネイユ及サンビルマンの市中に墮ち他の百十九丸を
リユクサンブール及ワルドグラースの市街に墮ち
ち家屋五個所焼損せり死傷の者十八人内八人
を死し十人を傷く○自十一日至十二日今夜十一字
及十二字の間は雨降る彈丸の數二百五十彈也而
て其二十五彈を河の左側にある市街中の教育院及
養貧院の學校中へ墮て少年の盲者五人斃り究孤貧
子五人傷たり又此市街中三個所焼失せり死傷の者
三拾一人内死者七人傷者貳拾四人○自十二日至十

三日今夜砲撃甚しく飛來せし彈丸の數二百五拾丸
よし其方向は前宵に均しジャルダントプラント
及ノートルダム乃街中の甚しき害を受る家屋五
拾一軒損毀せり死傷拾三人内死者貳人傷者拾壹人
也總計五日よ十三日迄朝迄巴里府南部の人家市
街及途上に在て死傷受る男女都て一百九拾九人内
死者五拾六人傷者百四拾三人也右死者五拾六人の
内童兒拾九人婦女十六人男夫七拾貳人右傷者百四
拾三人の内童兒廿六人婦女四十五人男夫七拾貳人
也死傷の童兒四拾五人婦女六十壹人男夫一百四十

西人也)○同十七日昨十六日軍中報告昨日ハ深霧終日其遠望を妨くと雖も我諸砲臺より多く砲丸を射弾して敵乃砲臺を撃挫せり又敵軍モンルージワンス。イシーの諸城寨を苛烈に攻撃し又ノジャン城に向ひて敵兵絶へば放火派と雖も其爆丸の飛來大なり前日より減せぬ今朝八字ミロー乃地に於て前軍の一小戦有りし時モンルージ城より多く砲火して大に敵を掃攘せりマールン乃屯陣の前營に多く敵の爆丸を受くとも大なる損亡なし云々○巴里府中豪商等の施行籠城既日久しく府内の貧民窮子生活

ふ困迫に故に此籠城の初めより政府施行の飲食場を設る又市中の豪商社を結むて其食物施行の道を開き今日日誌に書載はる昨日一豪商ウエルスは依るの三萬弗蘭の金貨を出して府内の貧民窮子を救助せりと云○食糧麵包の定量府内貯藏の食糧の麵包既乏に及ぶを以て政府布令して今朝より麵包商人の商法を定め一日一人は賣與ふ麵包の量一斤を過ぐべからず之を買ふ者を市街督務官の證券を所持しへき事也と云○同十八日昨十七日午時軍中報知昨夜敵の砲撃以前は倍し今朝來再び劇

射して最も苛烈也而して今猶引續連發して彈丸雨降せり今朝我諸城寨よりを多く砲撃して雙方の彈丸落下ははこと雨の如し昨夜半敵ボンギー寨に向はて俄に襲撃ははとも皆悉く逐ひ退るられたりモ
ンルージ城寨に於ては昨夜以來敵は砲撃殊に猛烈なりとて城中若干の死傷あり今日又南部に諸城敵の砲撃を受くは最も苛酷也巴里府内市街中其爆丸雨降は前日より相侷し云々○昨十七日商農全權職よ
り市街に布令あり此程府内市中大麥小麥總て食糧に麵包を製造はは穀類を政府に命令に應せす若

し竊に密造をる者ありて之を訟訴公聞せし者ハ吟味の上褒賞として麥量百斤に付貳十五弗蘭の貨幣を與ふべき也云々○今日より食糧麵包の量再び減して一人一日の食料三ヘクトグラム(即我八十目余也)小兒五歳以上を其量の半を減は近日は麵包槩に米稷を以て製はる故に堅實より其量重く其嵩甚を些塵かり今日府内は困究推して洞察はは也○同十九日昨十八日夜軍中報告昨夜以來南部に諸城寨に敵は砲撃前日に相侷し而して此地にあり我諸城寨より發射はは最も苛烈かり又昨夜府内市

街中に劇敷敵乃爆丸雨降せりと云々○今朝政府普
く市街中に壁書乃布令あり其文は曰敵軍晝夜我府
内市街を砲撃し我衆多は婦女兒童を殺し及諸病
院に其爆丸を雨降せしめちり爰に於て府内は人民
憤氣一時に發動し一喝各々兵器を執り敵に膺ちり
其肉を食むと云は是即其氣勢自然に億兆は胸膈より
出る所を云は也今赤心報國其身を國難に致はむと
欲は流るるの如く速に速に我怨敵に當ふべし又
出て敵に當ふ欲は流るる者如く速に速に我怨敵に當ふべし又
他の一大事件を行ひ國家に爲に報酬に當ふべし今日の

事只粉骨死に赴くの外他なし而して願くは捷をむ
一喝辭は曰奮起せよ共和制朝○今日軍務全權の布
令あり巴里府總裁職三軍總督三軍に所謂市兵民兵
及本務兵也ゼネラルドロシユ氏今日余をして陣中
留守官巴里府總裁職を兼攝せしむ是を以て余内外
の諸軍督諸士官と俱に内外軍務の諸件を相謀らむ
と欲は故に右將帥諸軍督今日午後第一字余は居館
に來會せしむべし右に會議は全く他は非は日々處
置はへき事務を相計るるもめ也云々○同二十日昨十
九日モンパシリアン城より發は朝第十一字今曉二

字より諸軍城郭を出て其軍を配布し戦鬪最も劇烈也而して其戦最も熾りして諸軍攝戦及へば余ハ只モンパシリアン城に在りて指揮を司り云々○昨夜六字軍中報告今朝以來モンパシリアン城寨外に於て我軍十萬の兵を三手り分ち巨大の砲軍を携へて前面の敵を膺撃戦攻挑めり我軍の左翼ハゼネラ九ビノアー其一軍隊を將たり中央の軍隊をゼネラルブラマー九之を指揮し右翼の軍隊をゼネラルジユクロー之を將たり而してベルゼリーの岳陵に陣せば敵軍を襲撃して數字間大に戦争をなして諸

兵咸く苦戦せり今日右戦鬪の様未だ詳らざる巴黎府總裁職より報告を以て政府若し此報告を得ば直ちに之を布告公聞使へしと云々○一月十九日夜九字半モンバリアン城を發し其報譽今朝幸に始まる所の戦鬪未だ我軍の目的に至らざる今朝我諸軍出て敵に當り血戦無比類午後三字の頃其戦鬪極めて劇烈なり其左翼に於て指揮を司り黄昏及びむて諸軍を引擧げり此時敵の砲撃殊更に烈し今日我諸軍苦戦無比類一層其英氣を増したり余未だ死傷及虜兵の數を知らば然しと云々余聽く敵兵の損亡殊に莫大

也云々○昨十九日商農全權より市街に布令あり此
程府内食料の麵包に製造及穀類を竊り蓄藏し
者あらハ之を訴へ出ひるべき旨過日以來屢々示令せ
り然しども今又此の布令今日より三日の内其
訴へをなほして猶政府の令に反はる者あらハ檢
査の上其穀類を沒收し且一千フランの罰金を出
せしめ三月の間入牢せしむべし云々○日誌附録中昨
日戦闘の目的ハベルセリーの丘陵を襲撃せむと欲
しあり而して法軍の三軍隊ハ三將其指揮を司
し即ち左翼ハビノアール氏中央ハドロシユ右翼ハジ

ユウロ―是也又其軍合し八萬三千人大砲三百
門也○日誌附録有曰一昨日大統領ゼネラルドロ
シユ其軍に赴ふむとし政事堂に出發し時諸全權
各官及諸友人に別を告ぐ最も懇情を盡し其
決意今次の出陣其敵を掃攘し其捷勝の功を奏し得
るに非ざると思はしむるを以て其訣禮極めて厚
かりきと云々○府内麵包の定め昨日政府普く市中
に布令あり曰當節麵包賣渡しの法毎日一人に付其
量三ヘクトグラム〔即ち我八十目余〕小兒五歳以上

此半量を與ふ而て其量目の麵包の價を十サンチ
ム(即ち我百八十文)と定む故に府内各街の麵包を
製する店塵ふを各々二名の目監吏及二人の市兵を
置て其雜選を禁し煩勞を制馭せしむ云々○府内食
料の諸物品及び薪炭全く盡て市中の困窮實ふ極ま
り貧子窮民途に號泣泣可憐○同二十一日(我十二
月朔日也)昨二十日朝九字三十分軍中報告モンパ
リアン城より今朝深霧四方より起り朦朧を起し敵軍
襲來せ依然ととも敵の砲火頗る熾なりしと彈丸我
兵隊上に雨降り爰り於て余指揮して之を引上るを

今日より二日の間傷者運輸及死者埋葬のため休
兵に議被敵軍に言送せし未だ其報答を得ぬ云々○
法國別政府ボルドウ縣よき急報あり曰一月十四日
ボルドウ縣發此程ゼネラルジカンデー二日の間烈
しき接戦をなし後マカンヌ地よき其戦隊を引き
舉たり此時敵將をフシデリツキシアール及メクラ
ンブールに二將にし其兵十八萬人也然しとも我
軍兵威を貶せざるに非ぬ不日に再以其地を掠奪し
掃攘の功を奏し此度我軍乃損亡敵の虜となり
たる兵大畧一萬人又大砲十二門を失ふと雖も敵軍

れ損亡亦莫大也と聞く下畧○昨二十日戦争なし一昨日ゼネラルブレンマ九氏乃陣前に於て一員の醫師長官ドクトールシカンヌと云へる人彈丸雨降れ下に立て手負人を送輸はれと云ふ指揮せり此時此ゼネラルブレンマ九氏其醫官彈丸をために殞たむ事と恐む俄に其地に進むと醫師此地を速に引らむよ此地を足下は居る所に非はと此時其醫師長官答て曰戰場傷者れ在る地を都て我居る所也と一語に言放てて自若ちて人皆肅然として其胸中に慥らふはことと感賞せりと云々(余此日誌を閲して

惟へらく此醫官能く其職掌を盡せ居る者と陣中の醫員を總て斯く有るべきを欲は故に余今此章を抄譯す一昨日の戦闘はコロネルモンブリソン氏に一人小銃を左に心下を受て忽ち斃れと此戦を獨兵が潜居せり一小家を襲ひ討ちたため其部下は歩軍を指揮して其家に向ひしと敵兵壁窓の間より之を睨み討ちたてと云附録に曰此コロネル其一小屋を襲撃はれたため何故自ら其兵を以て之に向ひ襲はむとせしや又何ぞ大砲を二三彈を以て其家屋に兵俱に微塵にせたりと云や可惜也と云○巴里府籠城

法普戰爭誌略 卷之六

十六

後府内と法國諸郡縣との書翰贈答都て彼の使鳩被
以て之被なせり故に獨軍之被防るむらたは巴里府
城周圍の林中より多くは鷹鵬被放ち置たりと昨日郭
外に於て市兵隊中より一羽は鷹鵬被獲ち來せ云○同二
十二日昨二十一日軍中報告昨日敵軍我南部の諸寨
及城中を砲撃せりと殊に劇烈也又我寨城中より
射出したる一爆丸敵に火藥庫に入て忽ち破裂し砲
聲震動せり巴里府北部の城寨サンテニール城今朝八
字半より敵の砲撃始まり飛彈殊に苛酷にして周圍
の村邑より雨降し黄昏猶歇まらぬ故に其村邑中處々より

出火ありを見流又城寨中損傷亦多し今日敵軍ノジ
ヤン城を砲撃せり事苛酷也云々○ツールアンゲル
川の地に於て我法軍の砲丸敵に火藥庫に入て忽ち
破裂し其震動爆聲實に驚愕源なり○巴里府市街中
人民の死傷錄第二號○自十三日至十四日昨十三日
宵八字より敵の爆丸府内に雨降る間斷なく極め
る劇烈也此夜より翌十四日之間に大畧五百餘丸の
爆丸飛來せり而して其最も甚しきと曉二字より朝五
字迄の間也此間より來る彈丸槩ね一字間百餘丸あり
又處々家屋乃燒毀枚舉せらるる死傷一百零三人

○自十四日至十五日昨夜爆丸の市中より來る宵八字より朝七字迄の間に五百餘丸也其最も遠く飛來せし彈をセーソ河に入れり其遠長に距離に達する真に驚く可し云々死傷三十一人○自十五日至十六日昨夜同市街中に三百餘の爆丸雨降より其苛烈前日より相侔し死傷二拾一人○自十六日至十七日昨夜爆丸の飛來ゆる前宵より減し市中人家及途上に落れんとり百九拾八個也猶又猛烈なは三拾五丸一時に雨降せしものあり死傷拾四人○自十七日至十八日昨夜市街中より雨降ゆる爆丸其數前宵より多し死傷三

十人○自十八日至十九日昨夜市街中爆丸の飛來前宵に均し家屋多く損害あり死傷二十五人○自十九日至二十日府内北部の市街飛來る砲丸前宵に侔し曉一爆丸或る人家の窓中に入て忽ち破裂し三大樽のペトローリル〔石腦油〕中より火移り家屋焼失せり死傷只九人右市街中の死傷十三日より二十日迄男女老幼其數合して二百三十三人也○巴里府内の騷擾昨二十一日夕刻府内べルビル街中に於て市人大に會議して再び政府に變革を計り是を舊冬十月三十日の變革と異にして今獄中に幽囚せらるる渠魁フ

ローランなる者を竊に奪ひ出候む事を計りて夜半
十二字過市兵若干の小隊竊に彼れ獄室に至り突入
し、フローラン氏を奪出し、今日午後三字半より四
字迄の間に此街中乃市兵其隊を組むて政事堂オテ
九ドビル館に押寄せ不意襲撃して變革を企及むと
以然に兼て政事堂に不虞に備へたる兵隊及び非
常警衛のたえ郡縣中より呼集めたる民兵其周圍に
屯集せし、今俄に市兵乃襲來、汝流を見て之を禦
らむとせし時市兵隊中より政事堂に窓内に向ひて
手銃を打出し、館内に死傷あり、又是時警備の民兵を

均しく市兵隊に向ひ砲發し、雙方若干乃死傷あり、
黄昏其警報を聞く、市兵槩に五十餘名乃死傷あり
と云余黄昏此事を聞くと均しく其模様を觀察せざ
と欲し直ちに馳せて政事堂オテ九ドビル館の方
に至りし時夜中既に八字也、館下四方を巡りて監察
汝に既に騷擾争鬪終りて館外四方衆多は兵隊警衛
し、又近街辻衢に人民群集し、右往左往物議囂々
と途上得て通行すへら、汝加之雨後の泥土累溢し
と途上恰も沼中の如く且燈火稀薄し、道路闇昧
なまは其混選言ふ可らら、余今夜馳せて爰に來候

と雖も時刻後きて眼前其争闘の状を視流こと能は
次暫時彼此を徘徊し群聚中を竄通し騷擾混選を體
を觀て販路に向ふ時既よ九字過く○同二十三日昨
日政事堂普く市中よ布告あゑ○巴里府總裁兼共和
政堂大統領職ドロシユ今日巴里府總裁の尊稱及其
職務を免せらるる只其政事堂中大統領たるの職以前
の如く其儘之よ任せりと云々○ゼネラールノアール
巴里府城諸軍總督將軍の職よ任せらるるなりと云○
當日總督將軍ゼネラールノアール巴里府城の諸軍よ
令は左の如し○共和政堂更よ余をして巴里府城

の諸軍を督せしめ汝諸兵を統一せしめて法國興廢
は權を執らしむ其任重大みして余固より當る可く
汝然しとも今日の事余辭はるる道なき我巴里府籠
城既よ四個月餘なれとも諸軍及市兵等勉強して能
く其防禦をなせ假令余今此尊稱を辭せざると欲は
と雖も其理許はる可く汝而して余も亦一兵士なり
は今日國家の危急よ莅むて其難害を避るは是即
我徒の職也今府内動搖して其戮力を破り國威を紊
れあり假令諸軍及市兵等我令よ背く者ありと雖も
余も只國事よ斃きて止まむものと云々○昨夜五字半

市街督務シユルヘリ一より市中二十街各街の督吏
ニ布告汝は巡文ニ曰政事堂オテ九ドビル館ニ向ヒ
テ襲撃暴動セシ市兵多第一一番隊也此市兵一百
餘は小銃彈を館内ニ射入シテアジユダンマジユ一
ル一名及民兵を即殛セシめたり此騒擾不軌を企テ
たは市兵十二三名及ヒ家中ニ潜伏したは指揮官を
捕ヘ併せて之を虜となせり又政事堂多數多ハ共隊
を以テ警衛したれを曾テ政府ニ於テ少しハ異變あ
れことなり云々○當日政事堂より市街ニ布令○奸
惡なれ逆徒は餘黨再ハ蜂起シテ其本國ニ抗敵シ共

和政堂ニ仇ハ其所爲全く戶外の梟敵ニ荷擔ハるん
ルに似たり今敵軍我府内ニ爆彈攻撃汝れ及む
内部ニ拌攪あり兄弟相刺シ同僚相殺ハ何を以テ
此梟敵ニ當らむ嘆慨汝れ及む非ハ政府固より卓
然其抗力を保テ敵軍ニ向ヒ飽迄其抗力を盡ハむ
と汝然シハ我府内の抗氣多皆同一徹ふる也今
政事堂勉めて其抗戰ハ力を盡シテ其職掌を貶ハル
と云々

一千八百七十一年一月十九日

巴里府城政事堂各員諸職

日誌を閲後依に昨日政事堂に虐徒暴動し雙方に市兵民兵乃即死六人手負四十餘人あり又近方通行乃市人乃内老人一人小兒一人流彈に中り即死したる旨を記せり普軍の間諜未だ府内に潜伏せしる昨日暴動中故巴里府城總裁職居館乃門前より一人を捕へ又川河左側に街中より二人を獲たりと普其間諜を多く府内に入しを事驚くへし○一昨日巴里府總裁職兼共和政堂大統領及三軍大督務を兼たるゼネラルドロシユ其巴里府總裁及三軍督務を辭して共和政堂乃大統領職に止まりし昨日政府普く府内

に公聞は依み余此日誌乃布文を閲し又紙端を愚論を嘴に二國の戦争酣ふれに及むて其勝風頻み普軍乃上より生し法軍日夜敗走し八月下旬帝王那破倫其指揮劍を讓るゝ内外乃軍事總裁と有名老練の三將に托せり其鼎目

一諸軍を總督し出づ軍中の指揮劍を握依二將をバゼーン氏マクマオン氏也此二將全軍を二分し前後二道に分せし之を總裁は是を軍中の二總督兩翼將軍と云

二入て巴里府城を守り其城乃總裁職に任し府内乃

諸務を總括源流者をドロシユ氏にし、是を本城の大總督將軍と云

此三將の職掌恰るを鼎に如く其大任内外相比較し而して三將の出沒進退を觀るに左翼の將帥マクマオン氏帝を擁して軍を率ひセダン縣に入り數日苦戰肝腦途に塗られ鮮血野に溢るゝの後九月二日に接戰に爆彈ふ觸り重く傷流さ竟る敵虜とされ其翌日セダン縣落城帝王十萬の兵を以て亦敵に虜に就たり右翼乃將帥バゼーン氏數回接戰に後竟るメツス縣に入り籠城苦戰七十餘日彈藥糧食共に盡る

の後十月二十七日終る開城せり此二將の處置勢に止むを得ざるをの乎將を其職掌を盡せざるを乃乎二に巴里府城總裁職ドロシユ氏籠城防戰に總督と成るに後九月四日政體一變新なる共和制度を開くに當りて府内之を立てて共和制堂の大統領職を攝ねしむ而して府内乃事出沒進退一なる其方寸に任次加めはる巴里府總裁職を兼任はるを以て本城の三軍を總へ廟堂軍中代事兩なるを兼ね去國興廢を自ら委し其任尊大加ふ可らば而して府内二百餘萬の生民均しく仰き望むる其命令を奉承は然るに籠城既

よ四個月餘出てく一目敵を掃攘せせと決然功を
奏すれことなく尤軍門に事態其機變固よ奈以て一
日ふ槩論を起らるに決と雖も其兵權に伸ひ決然城中
殆と五十餘萬に兵を擁し之を死地に入きて敵陣を
破り其活路を開くの抗戦あるを見決然既よ一百餘
日其處置只府内人心を泥め激動を防ぐふ厚くして
出て掃攘に決の策専ら郡縣の援兵至決を俟決の意
ありて自ら突戦の策を伸へ決故ふ府内大ふ失望し
其所爲を憤怒に決よ至り而して府内食盡き兵羸
きて落城旦夕ふ迫り其開城迫切の日よ至り總裁職

を辭して軍門に兵權を解き専ら政堂に大統領職を
保じて廟堂の上ふ坐せ其進退出沒事迹得て知る
可らに余他邦の眼決以て是を見決り斯く内外の重
職に居り軍事に任決者身を忘る努力をるに其策
略成ら決るを視に出て軍頭に死せせのよ其上渠過
日普く府内よ布令を起一言ありて曰巴里府城總裁職
に會て開城決可ら決云々此一言未だ普く府内二百
餘萬人の耳底よ入ら決然に忽然總裁に職決避る其
居を轉せ奈若し府内の粟全く盡るに至らに總裁職
何決以て其籠城を保ち何を以て貳百萬口の生

命を救ふるさや惟ふ此一言全く當日乃詭詐よし
て虚動は人民を一日偷安せしむはれ虚言可属は
し○今日法國郡縣中乃諸日誌の巡はる府内よ來
るの汝閱ははる正月七日普軍本陣を出るの日誌報
告中よ曰今次普軍の本陣は各國に軍務士官來はる
軍陣戦争は事情状態を監察せよとめ來はる客は
曰魯人英人埃人以人而して日本士官九名來り客は
之と記は余此書を視て神心飛揚踊躍せよ其軍は始
日おは八月五日より數冊の書翰を造はるこの軍情を
報知せよとめ急速我 日本西郷山縣三堀船越

は諸士に贈れり而して竊は俟は我軍務官の諸士官
遠ふ來りて其状態を眼下に監察あらむことを常
其書翰到着の日より士官航海は時日を推し量り屈
指して俟は屢々當府に在學同士友人と語はて其仲
き俟はると既ふ日あり然しと籠城中書翰の往復
ならはして當地の友人中我 日本に消息汝得は流
既よ全く六個月也然る今日此日誌を就て我 國
九名の軍務士官普軍中よ來る客は之と聞き今日の
愉快之に過るんはなし余欣然屢々其日誌を反復熟
讀し其眠りを忘し毫を採りて快然其事を誌は耳○

同二十四日軍中よりに報告敵軍の砲彈絶へて市中
に亂落は依最も劇烈也又我寨壘より敵の砲臺及
屯陣上と射發せり昨日午後二字我寨城中よりに射
所の一爆彈敵軍の火藥庫中に入リ忽ち破烈せり昨
日敵軍我寨壘シヤラントン城より五十メートル(我
二十五問の距離あり)に地よ於て巨大に砲臺を築
り同日ノジャン城よ於ては敵兵烈しく砲撃し城内
の破損數十個所ありと雖も其手負を僅一人のみに
深手也又サンデニ一城よを攻撃最劇烈にして爆彈
又終日亂落せり此時敵を進むて其城よ近はき所々

に砲臺を造築せり昨日ブリッセ寨中よ亂落は依彈
數一千餘也而して敵軍我イルタンユウ及びヒエネ
ノ寨の近傍三百メートル(我百二丁三十問に當る)に
於て其砲臺を築り今日西部に諸寨城よ於ては暫
時砲發歇たりと云々

一月二十二日夜

内務全權

○一昨日市中への布令方今府内に於て市人所々會
合の席を設て多人數羣集し種々に評論に及び政府
よ違背派流論説を吐くもの多くして市人其人氣を
動搖し國家に對し宜しからず依所爲候とせり仍

其會席を閉鎖致はる事右監督使を市街警備督務
職に委任せられ候事○第二の布令今新たに軍務局
と賞罰裁判局を二局を設け此二局の官員撰擧の儀
を専ら軍務全權職に委任せられ候事○新聞會社の
廢止しベール及コンパーと號する新聞會社二局此
度出版の儀斷然禁止せられ候事右二社中屢々政府
に犯違の諸説を公聞し大に人心を動搖せしむはる
故也と云々

一月二十二日

巴里府

○同二十五日籠城今日既に一百三十日也一月二十
四日軍務督ゼネラルワルダン軍中より報告

去れ十九日一戦後敵軍所々其砲臺築造せり南
部に諸寨城を終日敵に爆彈亂落せり然れども
パツシー及ポアンドジウールに於ては傷者只一
人れみ

一シヤラントンバニウーモンルに諸城を攻
撃猶續たり然れども其城兵最奮發防戦せり

一ノジャン城を此城より三千五百メートルに距
離に於て敵新ちる砲臺築き昨二十三日終日砲

撃し爆彈多く亂落せり

一北部はサンデニー城よき昨二十三日爆彈多く亂落して城中に死傷八人及べり

○一月二十四日夜ゼネラルワルダンよりに報告終日敵は爆彈亂落し前營第七番の陣所を越ゆれ弾數都て二十二前營と一人は死者あり又北部は諸城とも砲撃極めて烈しく又オーベルビール城と多傷者三人ありと

「シスト城の今朝七字よき夕四字迄亂落は爆彈都て二百四十個とて六人其疵を蒙り

一プリユツス城よハ彈丸の亂落特々烈し然ども其手負ハ僅貳人なりと

一午後よりサンデニー城に向いて敵兵砲撃し彈丸は亂落最劇し而して敵ハ所々新砲臺築造せりと

○獨逸宰相ビスマルク氏の返翰去は十三日巴里府在務は各國外務全權公使十餘名の連名を以て一翰を贈り府城砲撃は前知規律は問ひと督責せり之に因てビスマルク氏返翰を認め府内ふ贈り其文は日當月十三日宰相足下及當時巴里府在務は各國全

權公使連名に貴翰余謹て之を披見せし今度我普
軍巴里府城を圍り砲撃候に及ぶる府内可在留候
其局外中立各國に人民俱み其災害を罹候と故に之
可處候に軍律に制度及府城砲撃に前知等其公法
に基き其軍度も法と候べき件に諸公今余も之を問
へしと夫も巴里府城に市街を砲撃候に及むて其
事實を足下及び各國全權公使等に改めて前知報告
せし事余亦一に憂候懷に候可非候然りと
雖も今此一大國に中央に一大城を置き之を郭候に
可長大延曼なれ巨大の砲臺を造り之を守候に其周

圍累々連属大小に諸寨城を配備候而も内に築ぬ
三百萬人に人民を收容せし今此人民をし其災害
を蒙らしむるも城中主宰に所爲に關係せり次ふ又
此城郭今攻者に砲撃を受く候を視て猶爰に住居を
置く者亦其身に起居出沒を固よし自ら量り定む
べきに非候や夫も巴里府城を法國の本城堅郭とし
て全國の中央に要害し法國の精力咸く爰に聚まり
法兵此地に據り其抵抗力を保ち而し其機も益と朝
に出て我軍を襲ひ暮に没し其城内より遠く我諸
陣を射る其出沒渠を欲候候まも也然も我諸將

軍等未だ一回も其諸陣を砲撃せざるを前知の報告を得たることなし惟ふに此事余も於て怠懈の咎科を蒙るべき謂もあることならざるも其上余今思ひ出ざる事あり曩に九月二十六日我獨逸副全權職千一九氏よ京我普國伯靈府に在務せり各國全權公使へ廻文を出し戦の主意を述べ巴里府に在留の人民も付き其處置あらむことと被記せり而して巴里府籠城抗戦の勢いあはれを視て余再び十月四日第二の廻文を以て巴里府に在務せり花旗合衆國全權公使に送り同氏も托して之を巴里府に在務せり各國諸全權公使へ

廻達せり而して局外中立の各國人民巴里府城を避る者ハ我軍中城通行し毫も故障ある事なし之も因る余懇情を注ぎ改めて前知報告の厚意を述べしを此各國人民も對し其居の危き被報告るも怠たるの疎意ならざるし其上公法に於て攻者守者も告るも其攻撃の進歩も前知せむことと被欲ゆ故に我軍初め巴里府城を砲撃せむことを決定せり此時余其事件被具はる法國外務全權ハープル氏も贈り是も巴里府城の不日に砲撃せざるべき燎然たり此危變も應して其害被避る其災を遁るる誠も各自に處

置りしより更り他人の言候俟はるるに抗る也公法規
律中より曰一市一府城圍と攻るに周圍四面よ京之を
砲撃し其市街を碎毀はるること殘忍の戰狀にして最
大の條理あるに非はむに爲はるるに然も且も市
府の城郭堅固にして城中の抗力強く守者却て攻者
の圍と城砲撃解散し且彈藥糧食等充實し籠城日久
とくして攻者とて城拔く可他の術計無き時ハ之を
四面より取圍み烈しく砲撃はるる亦不可ふること
なり然も且も今我軍の標的は於てハ此府内市街を
碎毀はる事素よ京本意に非はると雖も其城郭堅固に

して侵入はるるに而して法軍之を恃り却て我軍
を撃破せむと京渠を機と臨み容易く出てく我を襲
ひ軽く入て其迹を隠くせり軍律固より許して之を
砲撃せしむ今又層て此一個條を公に足下及連名の
諸全權に報答はるるに余は在府の各國諸全權に廻文
して戦を告候の後既に數月を経たり而して此時間
に於て各國の人民府内を奔り避く候に我軍中を通
行はるるもの會て其妨はるることなし而して我前營
中今日に至る迄若干の官員を豫備し在府の各國人
民避難の期に及むて其全權官員より應接の上

通行の免狀を渡し且護送の事迄も心配せず曩も各
國數百名に人民屢々巴里府城を退去せしむる其全權
職より余も我軍中通行の旨を相談し數度府内を避
去せし其事件の確證を今此書翰に連名の官人及び
諸民の精しく知れる所也然れども其居を容易く出
ることを得ずと得ずとせざる其處置又法國政府の權柄
に係れり然らば今我より頻りに事述れざる實に其
意を反し却る其轉居を促るは之似たり然れども雖も
今若し府内を去る者あらば我軍中通行の義は故障
無き様執り計らるべき也然れども其府内は於て居住

を安んずし其砲丸を避るゝむるの事ハ巴里府開城の
後ハ非徒をハ我とせざる爲に能ハば今各國人民其居
を去りて籠城を避るゝむと欲せざる其通行の義ハ直ち
に執り計らるゝ一然れども其人員一時に五萬を登
らば送輸に豫備得て給はるゝハ巴里府に人民不
幸なれども我爆彈の爲に死傷を蒙るゝ亦少からず
余實に愁傷を耐へば然れども雖も我普軍の大砲其
城中に向て發放し居るゝ及むる府内の婦女兒童及び
病者の居館を避るゝべき旨を令せむること甚だ難は
るゝハ巴里府城ハ築造自ら廣大なりし其周圍に諸

海軍軍令部 卷之六
三十一
寨城あり而し我軍の砲臺ハ甚ちこれと遠隔は斯く遠隔の地ニ在る府内の傷者寓居及病院ヲ避く可き手段ありを以て夫も人漫み傲はる其隣人を劫らし其軍潰せし其本城の籠り爰に抗力を爲はせしは亦攻者これに撰せし其城中守兵羣集の中央を雜居せし外國人の居館及び病院傷者の寓館は區別し砲撃を避るゝめせしは亦其處置最も難き者なれば亦や此のみならず若し之を約し避るゝむは地の地を置るハ府内の守兵其休憩場其傍を造家出々恣まると我を襲ひ容易く入る爰に集家休憩は

得へき者に非はるや右の數個條余謹むる之を諸卿に足下ニ答ふ足下宜しく此意を探て過日連名乃各國諸全權ハ普く通達あらむことを乞ふ云々恐々頓首
○同二十六日一月二十五日の夜軍中より報告巴里府城北部諸面に敵軍日々其砲臺を増加し最も盛大也昨日北部乃砲撃劇烈ならは唯前營二個所は燒損ありはみ東部の諸城も亦砲撃烈しは亦但しノジアン城にも砲彈頻りに來り城中四名は傷者あり北部は寨城オーベールビール城に終日間五百は爆彈亂落せし城中三名即死し三名傷流きたり又ホルド

シスト中ふ墮はる彈丸劇烈なり。塞中三人傷者あり。○南北の諸寨城砲撃を受くる前日に齊し然しとを其死傷甚しとイシ。城に一人モンル。ジ城あり四人第八番屯陣中。五人ヘーサンデリー城。二人ワンセン城。七人ノシアン城。一人ドウブルク。ロン城。二人ホルドエスト塞。七人ブリツシユ城。み三人也。其傷者總々三十二人なり。今日ロスニ。城中に砲撃はる爆彈都々四十五也。又サンク。ル。城近傍の村里燃焼し。烟煙終日絶へし云々。○和議解軍の端緒昨朝。二里府在務花旗外務宰相ワスボルン氏の

元よ書翰送達儀。設計を察し。此書翰を法国外務全權ハーブル氏よ。普國宰相ビスマルク氏へ贈る所の一書也。是果し。和議解軍に應接。開くの端緒をらむと云。今朝日誌を閲するに。政府の事情稍和議乃生じむと。及ぶ機ありと云。日誌著述者爰に附録して曰。今若し和議を計らむと。及ぶ。二國間其談判の墮流は處大畧爰ある可む。其條目左に掲ぐ

和議解軍に條約

第一に一百億萬金の贖償と。れを十個年間み拂ふ
べき約

第二に、アルザツス及ローレンに二大縣を今より十個年間に普國に附屬せしむる約

第三に右十個年後償金全く拂ひ畢ふれば後右二大縣普國に屬せしむる或る再ハ法國の版圖に復しへば此二縣の人民之間ふ其入札公議の背向を任はる約

第四に若し此二縣再ハ法の版圖に入ふこと欲せしむるときに換ふは亞弗利加洲に内法國所領の屬地アルゼリーの地を以て咸く普國の附屬はる約

第五に法國獨逸同盟國と俱に交親應接はる約

第六に獨逸帝國法國共和政堂と和親交接はる約
○解軍休兵の約(和議和議の前に成るの約あり)普軍巴里府周圍の十七寨城を咸く領はる但し巴里府城中に決して入るるは是休兵解軍中の約也其解軍和議の約成ると均しく直之を巴里府の政府より法國郡縣別政府のボルドウ縣に報告し諸軍且全國郡の兵を集め其兵器を収めしむ此時若し法國全州の兵巴里府城の和議を應ぜず猶普軍を抗し防戦はる等此事あらば巴里府城に在る三軍を

法普戰爭誌略 卷之六 三十一
舉る軍律中の虜となす咸く普國を送らむ巴里府城
郭を總る普軍に有と成るる事○他邦新聞日誌一
月十日普の本陣ウエルサイル城よりの報告一昨日
郡縣の戦争よて我軍中より生捕る處の法兵總て四百
人我軍の死傷士官一人兵卒十九人也翌日の大戦ふ
る我軍中より獲たる生捕一千人輜重車四十輛なす○
一月十七日の報告去る十五日我先鋒ゼネラルウエ
ルデルの本陣と法軍襲撃し戦争劇烈ふしる九字間
を移せしる法軍終りよ咸く追除せらむて敗取れ
る此時我軍より巴里府の近傍に三百人失へり去

る九日より十二日迄の間郡縣所くは戦争我軍の損
亡都て三千三百八拾人内百七十七人の士官よし
餘は三千二百零三人の兵卒ふり我軍中より生捕る所
は虜兵都て貳萬二千人旌旗二本大砲十九門大輜重
車一千輛餘其他又許多の兵器諸具等を得たり○一
月十八日は報告去る十六日十七日兩日は戦争あり
先鋒將軍ウエルデルの軍中より法兵貳千人を生捕し
たり同日再びウエルデルの軍と法將ブールバツキ
の軍と戦ひしる戦ひ極めて劇烈也右兩日間我軍は
死傷一千貳百人として何れも巴里府城近傍より死

傷しゝる京同日其城内よ京射所に爆彈あり我軍死傷しゝる者士官貳人兵卒六人也○一月二十一日に報告去る十九日巴里府の城兵其城を出て終日烈しく戦ひしゝる此時敵方より手負貳千人就捕の者七千五百人大砲六門を失へて去る十九日巴里府城の前にて戦死四百人もありて敵軍の戦死損傷衆多あること量り知はるゝ此戦争後敵軍四十八字間の休兵を乞へは是其死傷を運輸埋葬せむる爲也爰を以て敵に死亡の衆多ある量察をへし○一月二十三日ウエルサイル城より普軍に報告巴里府城を攻撃

され爆彈毎日断へ聞るゝ一昨二十一日よ京北部のサンデニー城を攻撃を始めサンカンタンに戦あり法兵に虜り就く者都て九千人なりと同夜べルボル寨に側に於て一戦はれり我軍の爲に生捕らるゝ法兵士官五人兵卒八十人なりと巴里府城中及サンデニー城壘を攻撃はれ我軍の爆彈連日熄まはれしゝる府内及サンデニー寨中所々燃焼し焔烟空を覆へてと昨日我軍將リウテナンコロネルの揮下の軍隊ブーモンの近傍に戦ひ敵兵一百八十人を討取き此此時味方の死傷只四名なりと云々○巴里府内飢渴

寒凍に究困○昨日よ、府内市街中へ分配はる食料
に麵包下品なりし、其色黒赤、或帯ひ味極めて悪くし
、恰も稷糠を合せ製はるもの、如く内に塵藁、其類
多く交り中々得ず食ふへら、然るを籠城飢渴
に既に久しき、徐々其飢食り慣習、既と一百三十
餘日の久しき、其飢に逼るに至る、更に味乃美惡
、或分能はる唯日、乃生活、或繋維はる、乃今巴里
府市中の犬猫鼠を食ひ盡せると、樂は十の七八分
に至れ、此三肉何れも高價に、大犬は股肉、其價
七弗、蘭(即ち我)一兩一分二朱也、一猫は價八弗、蘭(即ち我)

三朱也、鶏卵一箇の價二弗、蘭(即ち我)一分二朱、ふし、
諸品其價の貴きこと、推量、或るべき也、而して斯く物價
に沸騰を全く物品の缺乏より生ずる者と、或○自二
十二日至二十三日、今夜市中に爆彈の亂落は、前ふ
齊しくし、所々焼損し、市中死傷十六人、内小兒三人
婦女五人、男夫八人も、○自二十三日至二十四日、今
夜市中に落る爆彈一百二十八、して之を爲す多く
焼損は、家屋二三個、市人の死傷十貳人も、内童兒三
人、婦女四人、男夫五人、○自二十四日至二十五日、セ
ン河左側に亂落は、流彈、夜中一百零一個、みして家

屋をめぐり損焼はれぬもの二家市人死傷貳十貳人也
内童兒二人婦女二人男夫十八人○自二十五日至二
十六日今夜亂落乃爆彈一百三十九也而して一病院
中彈丸の落れと總て十五彈且市中三個所焼損あり
茲今夜死傷都て三人内男夫一人婦女二人といひ○
二十二日夜よ茲二十六日朝迄市人死傷はる者都
て八十二人也○同二十七日一月二十六日軍中よは
の報告昨夜敵軍砲臺及ひ諸寨城と烈しく襲來せり
又ウンブイシー及ひモンルージ城寨中ふも爆彈續
ひて落も死傷若干也北部の諸城寨の死傷都て十九

人にとて敵乃放發猶熄まはれしと云々○和議應接
○昨朝法の外務宰相ジユルハーブル氏巴里府城
出るウエルサイル城の普本陣に至り昨夜八字再ひ
巴里府城に飯をて飯後直ち政堂大頭領以下諸官
員諸職を集めて會議あり今夜半十二字迄此會議猶
歇まはれし此會議は事件人聽くことを得は依り其
事情は知流者あり○砲發歇止○昨夜八字右外務職
ハーブル入城の後諸寨及諸屯陣中に布令あり夜半
十二字よ茲全く砲發を歇ちて又普軍の巴里府内及
外諸壘上よ攻撃はる者も今夜十二字よは全く砲

發を歇め雙方靜穩なり昨夜半よる法軍前營は諸屯陣盡く兵を擧ぐ陣拂ひたり諸城寨に入て或る府内に入り其前營對陣の粧裝全く廢止せりと今度解軍和議の條件を來れ二十九日普く法國全州に公布せらるるを而して此解軍和議を付談判の時日を三週日間即ち一月二十八日より二十一日間にして二月十九日迄也と云此和議談判中直ちに一鐵道を修復し國境に蒸氣車を修理し及び傳信機造築並に修理等致し及事○軍務官の簿書中に巴里府城の内外三軍(本兵民兵市兵)の兵數を載せたる簿書あり探る

ことば閱波ふと曰巴里府の籠城の防禦兵本兵海兵民兵市兵合せ二拾八萬人市兵第二等と備ふは諸隊拾萬人右三拾八萬人を皆城郭外屯陣に戰隊兵也大砲は位置及び砲臺は數一百三拾五場各場六門よは七門迄設置く其砲數總計八百十門なり巴里府城周圍に諸城寨中に在は兵數拾萬人あり城郭外に屯陣し敵陣を襲撃せむ爲に設くは軍隊其數九軍隊毎隊貳萬人宛あり總計十八萬人又砲數六百四十八門也應援貯兵拾萬人大砲隊十七隊其砲數百六十貳門也巴里城外に出る十六個の城寨及諸陣に屯

營し戦鬪に使用せらる兵其數都々七拾六萬人砲數總計一千六百貳十門也と云右兵數及び砲數の總計ハ巴里府城内部の砲臺城守禦せらる市兵隊城除きたる算數ふるゑし○同二十八日昨日政府より市街への布令曩より法國政府府内の抗力を擧ぐる戮力しと籠城防戦の目的ハ近傍の陣したる諸郡縣乃兵隊敵の背後より追來我本陣に應援す來れへき日あるを俟はる故也然るに近日の報告を見れば郡縣の援兵全く途上に敗れ遠く其陣を引擧ぐるも亦爰に於て我本城の目的全く亡失し府内の食料既り盡きたる假令我輩

死力を盡して防戦し斃せんと欲せし雖も今日の時運これ奈何せむ今日更に依頼しへき救援の術なく政府の策略標的咸く消散せり爰に於て政府和議設計らんと欲し其處置を施行せらるに至る然も和議條約の件々約目れ如きは今日未だ公聞はれずと能ハば暫時間を後普く府内を公聞はれし但し和議解軍の公法規律に至るは固より秘はれべきもの非ず其目左の如し

一よ今二軍間の和議設計らむと欲はる其條約の大則を論じハ休兵しと和議全成はれ迄の時日は普

軍巴里府城の周圍に在る拾六個の城寨ハ盡く領有次第と雖も普軍壹人も府内に進入次第ハ是即ち和議の公法其軍兵の咸く府城に入らざれば是き換約也

二は休軍中巴里府城の市兵番兵及一戦隊ハ屯陣ハ此事従前の如くと雖も巴里府城ハ兵隊ハ壹人も郭外に屯陣次第ハ是即ち和議公法の槩則也云々

○昨二十七日朝第八字軍中諸總督副總督及諸軍陣督務の諸將帥咸く政事堂に集り政府の各員諸職皆

列坐せり其時大統領ドロシユ巴里府城の抗戰既に其標的を失く嗣くは籠城ハ目的なく今止むを得ざるに出て和議を計らむことの大意ヲ述べるを衆會坐の諸將軍都て一言の異説なく其會議數刻にして竟る斯く異説なしと雖も諸將軍何をも切齒痛哭其心衷に入て腸膽を衝裂次第ハ如く一坐寂然皆其英氣を解脱せり○同日午時十二字外務宰相ハブル普國宰相ビスマルクハ一翰を得てこれヲ政事堂に通し午後二字普乃本陣ウエルサイル城に發向せり此時同行ハゼネラルボーホルドウトプーニ氏及カ

ピテーンエリヅン氏外に書記官二員一僕有て革管
被携へちて外務宰相セーン河よて小蒸氣船に乗て
普軍前營の河岸に着ひぬ此岸上普軍士官三名四
馬繫乃乗車を以て之を迎へ直ちよこれふ乗りて本
陣に行々て其時の同行を外務全權及びゼネラル乃
とよして他れ士官を此岸上み待止せて夕刻四字普
軍の士官四五名此岸上よ來り法國諸士官に對面し
若干の卷莢を出しこれふ勸めて曰今日よりして向
後俱に朋友問也我輩曾て遺恨あること無し願はく
も公等我卷莢を採て之を吸ふるし余輩今日實よ本

懐なてと云法國士官之を謝し其勸めに應せしして
竟ふ卷莢を採らばと云黄昏六字外務宰相ハーブル
普の本陣を去る販路に就き巴里府城よ入迄に及む
て直ちに大統領ドロシユの館よ至て夫よ同夜九
字諸全權各務全權の居館に集會汝當夜會議れ事情
人得て推知汝ふこと能は汝と雖も今日ウエルサイ
ル城應接中に普の總督軍モルク氏其和議乃條約を
結ふに今日出會れゼネラルポーホルドウブール氏
よ之を談話はることを欲せ汝巴里府城三軍の參謀
將軍に其條約を結はむことを乞ふ爰み於て軍務督

ゼネラルワルダン氏外務宰相と共に明日ウエルサ
イ九城に至る可しと云○今日政府の司糧局より仄
聞ひるに府内ニ食糧僅ら十日分を餘せりと○今朝
數員の機械家府内を發ちて鉄道修理乃ちめ出府を
り三路ニ鉄道を四日間ニ其修理成就しむしと云々
○昨夕數員乃ち機械家府内を發して傳信機諸線の修
理に發向せんと云○昨日來和議の成らむとひるを
視て府内乃ち小民奸商等竊み貯藏し高利を得むと計
りし食料乾酪鶏卵鶏肉鬼肉豕肉の類俄に市中より出
ちて賣拂ひとら其價一昨日迄乃ち三分一を減し或ち

其半減し居るものありと云是他なし近日鍊道修理
して蒸氣車道成就し他郡縣より其食料及び諸品を
府内ニ運輸するに至るハ右貯藏の諸品更ニ利潤を
さことを知しハなす小商奸民の時情被計は奸智を
振立て其利を謀る萬邦同一也

法普戰爭誌略卷之六終

